

平成 29 年度和歌山県名匠

ふく がた たか お
福 形 崇 男

職 種：位牌文字彫刻

住 所：和歌山県伊都郡高野町

生 年：昭和 23 年

◎ 業績及び経歴

24 歳の時から、同じく位牌職人であった父のもとで位牌製作の修行を積む。現在は福形大日堂の 2 代目として、手作業によって位牌の文字彫刻を行っている。

高野位牌は、高野町杖ヶ藪^{つねが やぶ}地区で江戸時代から作られ始めた。その後、高野山の職人たちによって技術は高められ、脈々と受け継がれた。高野山へお骨の一部を納骨する“骨のぼり”では、滞在中に戒名を彫り込む必要があるため、限られた時間で丁寧かつ正確に仕上げる熟練した彫刻を必要とする。

位牌づくりは分業で行われることが多く、生地、下地、塗りなどの各工程を、専門の職人が伝統の技術で仕上げていく。職人たちから受け取った位牌に戒名を彫り込む作業は、最後の仕上げとして大変重要である。近年では、どの位牌の産地においても、文字は機械で彫られる方法が主流となっており、手彫りで文字彫刻を行っている職人は全国でも希少な存在である。

氏は寺院から依頼される位牌も製作しており、特殊な形や大きさに合わせ、受け継いだ熟練の技で文字を彫り込んでいく。半世紀近くにわたり、卓越した技術で位牌彫刻に取り組む実直な姿勢は、職人そのものである。葬送儀礼、先祖供養の風習・文化を象徴する高野位牌に関わる技術を後世に引き継ぐ重要な役割を担っており、その功績は多大である。